

ヒーロー伝説 ～古賀ね色の継承者～

九州・沖縄ブロック代表

福岡県 JA 粕屋青年部 秋山 隆哉

私たち、JA 粕屋青年部の活動拠点は、福岡県の県央地区に位置し、西側は福岡市に隣接しており、1市7町28万人を擁する、典型的な都市近郊JAです。古賀支部のある古賀市は、人口約57,000人、福岡市中心部から北に約20kmに位置し、高速道ICを国道と県道の2ヶ所に持ち、通勤や流通にとっても利便性の良い地域です。近年では両隣の市町に九州初出店の大型家具店が出来たり、大型ショッピングモールが出来たりと商業でとてもにぎわいを見せています。

JA粕屋青年部古賀支部

古賀市



人口 約57,000人

古賀市の総面積は4,211ha、そのうち農地面積は819haで、現在耕作放棄地が187haとなっており、この地域で10年後には高齢化により、増大していく事が目に見えています。そんな高齢化の中でも、古賀支部では専業農家戸数が他の支部よりも多く、作っている作物も様々で、米、かんきつ、花、野菜、養鶏等、盟友それぞれが地域に根ざした農業を営んでいます。

古賀支部では、年間通して「食育」をテーマに様々な活動を行なっています。幼稚園や小学校での田植え、稲刈り体験。じゃがいもや玉ねぎを植えて収穫し、給食の材料として使ってもらい、みんなで喜びを分かち合っています。田植えにおいては、近年、幼稚園たつてのお願いで、「泥リンピック」なるものを始めました。泥だらけの園児たちのキラキラした笑顔が見れる、最高の行事となっています。

昨年のとある会議での盟友の一言が私の心に突き刺さりました。グサリとではなく、ささくれの様にチクチクと。「古賀って中途半端やねー。名物も名産もないし。隣の町やらは商業でもうけようちゃけん、古賀も商業でもうけんかねえ！」



いつの間にか、このセリフが頭の中を占領する様になりました。古賀の農業をどうに

かしたい。しかし、一人では何もできない。そうだ僕には盟友がいる。さっそく、次の会議で僕の中にある思いをみんなに伝えました。すると盟友から「俺もそう思いよったちゃんねー」「俺たちで名物ばつくろーや！！」思い立ったが吉日、会議の次の日にJA青年部と営農指導員とで市役所へ向かい忙しい市長の合間を見つけて直談判。市長にも熱意が伝わり、市の農林振興課を交えてプロジェクトチームを作ることになりました。

青年部有志のプロジェクトチームには、市からの要望で農業者だけでなく様々な業種の方々も折りまぜて欲しいとの事でした。最初は、みんな緊張していましたが自分の思いをさらけ出して、どんどん白熱した会議になっていきました。その中でも、議題にあがったのが古賀の名物の無さでした。名物を作ることに決定してはいましたが、何を作るかがなかなか決まりません。

そこで、ある日の会議で青年部長が一言「スイートコーンば作ってみらんや！！」古賀市は都市近郊で消費者に近く朝どりのあまーいスイートコーンを新鮮なうちに食べてもらえる。糖度は17度を超えるコーン。「甘さを強調したいけん、スイーツと掛けて『スイーツコーン』にしようや。「スイーツコーンば古賀の名物にしようや！」



1年目は、手探り状態でどのくらいの本数を植えていいのかも分からず、約4,000本を定植しました。しかし、ここで販売方法はどうするか？という問題が出てきました。すると、メンバーの一人が「祭りやろうぜ！人ば集めてスイーツコーンば売ろうや！」みんながその意見に食いつき、すぐさま祭り開催決定。その名も「デザートのように甘いよ！スイーツコーン祭り！！」メディアで宣伝し、多くの人に祭りをアピールしました。

そして、祭り当日。会場に入るとすでに行列が！！なんと、スイーツコーンは30分で完売！！あまりにも早く完売したので、並んでいた多くのお客様からクレームを受けてしまいました。勢いに任せた1年目。コーンの量をはじめいろいろな課題を残した、ほろ苦いデビュー戦となりました。このままでは終われない。。

1年目の反省を踏まえてどうしても、祭りを成功させたい。そして、大きな祭りにしてみんなにスイーツコーンを届けたい。その思いから、スイーツコーンの植え付けを前年の5倍、20,000本に増やすことにし、2回目のスイーツコーン祭り開催が決定しました。

しかしここで1年目の5倍という圧倒的作業量が私たちにのしかかってきました。今のままの古賀支部の力だけでは限界がある。そこで、青年部全体の臨時会議を開いてもらい、2年目にかける祭りへ対する思い、スイーツコーンへの思い、このままでは前に進めないことを話し、他支部の盟友に協力を仰ぎました。そしてここから、「J A粕屋青年部、全盟友が、祭りを成功させる！」という同じ目標に向かって動き始めました。

さらに、J A本体の力を借りるため組合長にお願いにいきました。結果、私たちの熱い思いが伝わり、マンパワーとして、J A女性部や各支所への協力要請をしていただき、定植から草取りなど各作業の支援をしていただきました。女性部の協力で、祭り当日にコーンご飯の大試食会を実施し、お客さんの胃をみたしてもらいました。また、屋根つきのみかん選果場を開放してもらい、選別や袋詰め作業を雨風気にせず行うことができました。独自のネットワークを利用した予約販売など、J Aに多くの協力をしていただき、売り上げの増大につながりました。



ここで、祭りを大きくするにあたり、いくつかの課題が出てきました。その中の1つが、1年目とは違う青年部らしいことをやりたいというものでした。

青年部らしいことといえば、力を入れている「食育」。保育園や幼稚園にスイーツコーンを持って訪問して、様々な農業問題と戦い、食の大切さを問い続けている、私たちの活動を知ってもらってはどうかという提案がありました。この提案に目をつけた盟友が面白いこと言い出しました。

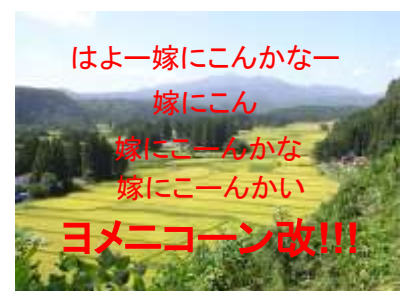
「それってヒーローやん！古賀のヒーローに俺達になろうや！」

「いつなるの？今でしょ！」

これは、おもしろい！青年部活動が新たな方向へ動き出した瞬間でした。

ネーミングは、親しみやすく、今いるご当地ヒーローやゆるキャラの中で目立ち、尚且つ農業問題を盛り込むことに。

農業の問題といえば、T P Pへの参加断固反対、農家の高齢化、後継者問題からの農業青年の結婚問題。農村には「はよ一嫁にこんかなー」と首を長くして待つ親父やおふくろさんがたくさんいる現状。嫁にこん、嫁にこーんかな、



嫁にこーんかい、うーん、ヨメニコーン改！！

これだ、『ヨメニコーン改！！』コーンが入って、ダブルミーニングになっているのでインパクト大！！これでいこうや！！

デザイン等はヒーロー経験豊富な商工会のクリエイターさんを交え、みんなで作り上げました。

そして、ついに完成。

まずは、古賀のスイーツコーンをもって市長と組合長を表敬訪問し、ヒーローのコーンに対する熱い思いと、古賀の農業問題を思いっきりぶつけました。

すぐさま両者の心をわしずかみ！！農業新聞にもデカデカと載せていただき、コーン畑でのTV取材など古賀のヒーローここにありと宣伝しまくりました。

青年部のコーンも順調に育ち、とうとう祭り当日！！

2年目ということもあり、手際は、ばっちり。朝採りで収穫し、いざ祭り会場へ。そこで見た光景は、1年目を上回る長蛇の列が。今年もやるぞ。生スイーツコーンの販売に焼きスイーツコーンの販売、コーンご飯の試食も大盛況、そして青年部独自の食育企画としてコーンの収穫体験。親子で参加してもらい、とまどいながらの共同作業。そこへコーン畑からヒーロー登場！「地上にある全てのものには命がある。ヒーローはコーンからも命をいただいてみんなを守っているんだよ」と熱弁。

子供達は初めて見るヒーローに大興奮！ヒーローは盟友とともに、子供たちには、農業の楽しさを、親御さんには食の大切さをアピールしました。サイン会や写真撮影会も開催し、充実した収穫体験となり、開始2時間で用意したスイーツコーンも完売し祭りは大成功になりました。

しかし、ヒーローには、休む暇はありません。まだ見ぬ子供たちにコーンを届けるという使命が待っています。今だ青年部の事を知らないであろう保育園に営業に行き、最終的に2つの保育園にヒーローがスイーツコーンを持ってやってくる事が決定しました。そこからは、青年部と先生方との打合せ。

ただ持っていくだけでは物足りないので、先生も交えて食育問題をからめた寸劇をやりたい。子供達に分かりやすいように。そして一番は、ヒーローを、そして、僕達の存在を知ってもらう事！！

ついにイベント当日！！

園児に扮した盟友が、泣いている。

そこへ先生がやってきてなぐさめる。

先生「どうしたの？たかはしくん？」

園児「せんせーい。僕朝ごはんを食べてないから力が
でないんだあ。。。」

先生「たかはしく～ん。朝ごはんはちゃんとたべてこなきゃってJ Aのお兄さんも言
ってたよ。困ったなあ～、先生今は何も持っていないよ～」

「そうだ！！こんな時は、古賀のヒーローを呼ぼう。みんなで、せーの、ヨメ
ニコーン改！！」

ここで、ヒーロー登場！！持っていたスイーツコーンを手渡し、決めポーズ。子供達
のヒーローを見るキラキラした目は一生の思い出になりました。無事、保育園でのイ
ベントを終え、今までにない達成感を味わうことができました。。

俺達が古賀のヒーローだっ！！



各種行事には、毎回決まったメンバーしか出てこず、幽霊盟友がいるのも事実でした。しかし、スイーツコーン作りやヒーロー作りを通してみんな積極的に参加する様になり、人付き合いの大切さ、盟友の大切さを改めて実感しました。スイーツコーン祭りやイベントを通して、市やJ A、商工会との連携を深めることができ、ヒーローの誕生によって食育活動がパワーアップし、なにより青年部活動の可能性が無限大に広がったことが1番の財産となりました。

古賀から始まったスイーツコーンが、今ではJ A粕屋全体を巻き込み来年度の作付面積はさらに増える予定です。そしてうれしいことに各メディアの宣伝効果で、青年部知名度が上がり新規加入者も増えました。さらに、青年部発信でJ Aが新しく立ち上げた「かすやそだち」というブランドの大きな柱に、スイーツコーンがなるよう只今企画中です。

これからは、各祭りへ積極的に参加し、古賀のスイーツコーン、古賀の農業ここにありと、ヒーローが先頭にトップセールスを行っていきます。来年度の目玉として、女性へのアピールを行い、スイーツコーンの定植や収穫体験をからめてヨメをGETする、ヨメニコーン活（婚活）の開催が決定しています。古賀支部では名物となるス

イートコーンを中心に作物の大きな輪をつくり、ヒーローを使いながら盟友それぞれが作っている作物の販売につなげていけるよう活動していきます。美しい日本の田園風景を守るのは、私たち農家にしかできません。この使命を担っている盟友こそが、これからの地域のリーダー、いや、ヒーローとなってゆくことでしょう。ヒーロー伝説は、まだ始まったばかり、いろんな敵と戦い、まだ見ぬ笑顔に出会うため、古賀支部はヒーローと共に歩んでいきます。」

「古賀のコーンば食べにコーンかい！」

